形態による解析は重要であり，形態からしか分からない事実もあると説かれている．評者もこの意見に同感である．

本書は上述のように魚類の形態について様々な角度から紹介しており，魚類に興味がある人には必読の書といえる．魚類の形を科学的に考えるきっかけを得られるのではないだろうか．形態学を面白く思う人，勉強する人，研究する人が少なくなってきた現在，多くの人にそれらのきっかけを与え，魚類形態学分野の裾野を広げることが本書に期待される役割だと思う．

（本村浩之　Hiroyuki Motomura：〒890-0065　鹿児島市郡元1-21-30　鹿児島大学総合研究博物館　e-mail: motomura@kaum.kagoshima-u.ac.jp）

図書紹介・New Publications

魚類学雑誌
53(1): 105

□魚類学

魚の科学辞典．—谷内　透・中坊徹次・宗宮弘明・谷口旭・青木一朗・日野明徳・渡邊精一・阿部宏喜・藤井建夫・秋道智彌（編）．2005．朝倉書店，東京．597pp．20,000円（税別）．ISBN 4-254-17125-0．本書は魚を多方面から解説した辞典で，「魚の構造と機能」，「魚と漁業」および「魚と文化」の3部から構成されている．「魚に興味をもつ老若男女すべてを読者対象」としているので，魚類学会の会員にとり専門外の分野の最新知識を手早く吸収するのに格好の一冊といえよう．専門家47名が執筆をしているので，内容は充実している．第1部の「魚の構造と機能」では「魚の環境」（谷口旭編）で海洋の物理学的・生物学的環境が詳述されている．従来の「魚類学」ではこの分野の取り扱いが不十分であっただけに，特に有用である．（佐々木邦夫）

新訂　原色魚類大圖鑑　圖鑑編，解説編．—多紀保彦・河野博・坂本一男・細谷和海（監修）．2005．北隆館，東京．圖鑑編972 pp，解説編243 pp．48,000円（税別）．ISBN 4-8326-0820-7．本書は1987年に出版された「原色魚類大圖鑑」（阿部宗明［監修］）の改訂版で，日本産の他に外国産1,019種を含む合計3,872種のカラー細密画が掲載されている．また，新たに別冊の解説編が加えられ，最近の様々な情報が盛り込まれた．図鑑編では旧版での不適切な和名（例えば，外国産種の商業名）もすべて改訂され，解説編には分類学的付記，分類群の概要，外国産種，絶滅危惧種や外来種など有用な情報が多い．参考資料の中には「日本産魚類全種リスト」（なぜか種数は未掲載だが，数えると3,954種）もある．価格は高いが，魚類学に関わる者には必要な図鑑となった．（遠藤広光）

Fishes of the world. Fourth edition. —Joseph S. Nelson. 2006. John Wiley & Sons, Inc., New York. 601 pp. ISBN 0-471-25031-7. 本書は同一著者による第4版で，すべての魚類の分類群やそれらの分類や系統に関する最近の研究を概観するには最も便利である．1976年の初版からこの第4版までを見ると，各分類群の分類体系の変遷や研究史がわかる．近年の様々な分子系統仮説を引用しつつも，それらには今後形態学的な裏づけが必要として，第4版では分類体系の大幅な改訂は行っていない．いっぽう，部分的に新たな仮説を取り入れたり，著者独自の考えによる分類体系も見受けられる．いずれにせよ，本書は魚類の分類や進化に興味のある者にとって必携である．13,500円程度で入手可能．（遠藤広光）

□その他

Bones and cartilage: Developmental and evolutionary skeletal biology. —B. K. Hall. 2005. Elsevier Academic Press, San Diego. 760 pp. ISBN 0-12-31906-06．進化発生学の泰斗ブライアン・K・ホールの大著．骨の生物学を分子，細胞，発生および進化の側面から議論し，これらを統合している．6,800にもおよぶ文献が引用されており，索引も充実している．まるごと一冊読むのはそれこそ「骨」であるが，索引を利用して特定のトピックスについての知識を得ることも可能．約14,000円で購入できる．（佐々木邦夫）